

～ 戦略的災害医療プロジェクト～

徳島県危機管理部とくしまゼロ作戦課

1

戦略的災害医療プロジェクトのねらい

東日本大震災(H23.3.11)

- ◇ これまでの「想定」をはるかに超えた地震・津波が発生

2万人近くの死者・行方不明者

死者 15,893人
行方不明者 2,572人
H27.9.10 警察庁公表

- ◇ 震災後、「避難所における生活の肉体・精神的疲労」、
「病院の機能停止」などにより死者が発生 ※平成24年復興庁調査

災害関連死 3,331人

教訓

H27.6.30現在 復興庁調べ

目的

災害関連死をはじめとする「防ぎ得た死」をなくす

2

東日本大震災における災害医療の課題

急性期（～1週間）

医療側の視点

- DMAT活動のための通信体制、ロジスティックサポートが不十分
- 防災機関と病院間の情報手段不足のため、孤立病院支援の遅れ
- 病院や福祉避難所などの燃料不足
- 患者搬送手段、医薬品供給体制の確保

被災者の視点

- 慢性透析患者などの通院困難者増大と病状悪化

亜急性期（2～3週間）

医療側の視点

- 診療情報の消失による治療中断
- DMATから医療救護班への移行
- 後方支援病院の確保

被災者の視点

- 避難所の寒さや劣悪な環境による体調不良者の増加、慢性疾患の悪化
- 支援物資の偏りによる栄養不足
- 要配慮者の健康状態に合わせた避難所の移動

慢性期（2～3年）

医療側の視点

- 被災医療機関の再開など地域医療への移行

被災者の視点

- 仮設住宅の孤独死、アルコール中毒、うつ病、自殺
- こどもをはじめとするメンタルヘルス

3

目指す姿

災害サイクル

○ これまでの災害医療

医療・防災関係機関が連携
救助・救急体制、急性期医療

急性期（～1週間）

亜急性期（2～3週間）

静穏期（平時）

慢性期（2～3年）

◎ これからの災害医療（全国に先駆け展開）

「時間軸」・「連携分野」を拡大

目標

- ◇ 平時から災害時へ、災害時から平時へ、つぎ目のない「シームレス」な医療を提供
- ◇ 医療関係者だけでなく「地域ぐるみ」による医療提供体制を構築
- ◇ 海外からの支援活動を見据えた、災害活動における国際基準の導入

4

プロジェクトの効率的展開 →

5つの行動分野に施策を分類・体系整理

プロジェクト行動分野

1 災害医療力の強化

2 要配慮者支援の強化

3 避難環境の向上

4 情報共有機能の強化

5 災害医療支援ビジネスモデルの創出

それぞれに「施策方針」と、具体化に向けた「主要施策を設定」

5

1 災害医療力の強化

(1) 災害医療体制の構築

① 災害拠点病院を中心とした医療圏域ごとの

体制強化、受援・応援体制の構築

- ・ 圏域ごとでの課題と解決に向けた検討とコマンド&コントロール体制の具体化
- ・ 広域的な取り組みの展開のための連携や県外からの支援受入の体制づくり

□ 災害拠点病院(11病院)

【東部圏域】

徳島県立中央病院(基幹)
徳島大学病院
徳島市民病院
徳島県鳴門病院
吉野川医療センター

【南部圏域】

徳島赤十字病院
阿南医師会中央病院
徳島県立海部病院
海南病院

【西部圏域】

つるぎ町立半田病院
徳島県立三好病院

□ 災害医療支援病院(8病院)

・「災害拠点病院」を支援・補完する医療機関
・本県独自の制度として平成24年度から指定

【東部圏域】

田岡病院
阿波病院

【南部圏域】

阿南共栄病院
上那賀病院

【西部圏域】

ホウエツ病院
市立三野病院

【専門分野】

徳島病院
東徳島医療センター
※人工呼吸器患者等の対応など

□ 広域搬送拠点臨時医療施設SCU(2箇所)

(県内で対応が困難な重症患者を、自衛隊の航空機やヘリで県外に運び出すための拠点)
徳島阿波おどり空港(松茂町) あすたむらんど徳島(板野町)

6



② 東部圏域、南部 I 圏域で、他圏域・圏域内の
医療関係機関連携による災害医療体制構築

- ・ 東部圏域、南部 I 圏域における災害医療体制の具体化
- ・ モデル地域での住民・企業など地域ぐるみで災害医療を支える取組の実証

③ 南部 II 圏域における災害受援体制の構築

- ・ 急性期以降の具体的な対応・連携検討
- ・ 訓練検証を踏まえた、受援体制整備、訓練の継続実施

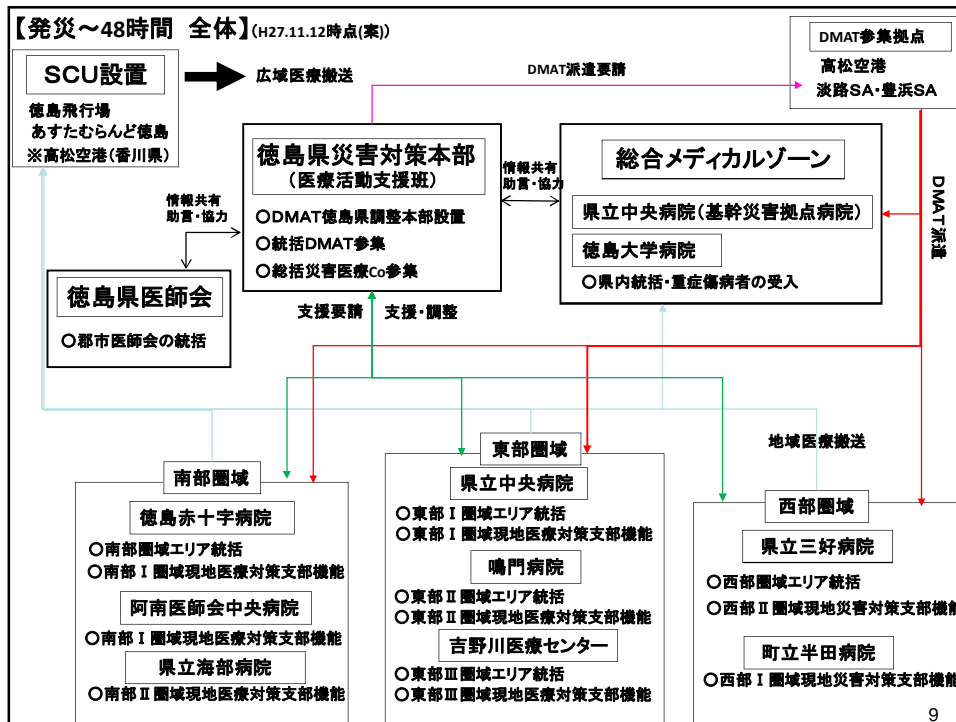
④ 西部圏域等内陸地域での関係機関連携の

災害医療後方支援体制の構築

- ・ 災害拠点病院等との情報共有や連携体制の構築、広域搬送、支援医薬品等の受入・搬送等後方支援体制の検討・整備や訓練の実施

⑤ 医薬品供給体制検討

- ・ 医療救護活動に必要な医薬品の確保、迅速な供給システムの構築
- ・ 災害拠点病院を中心とした医薬品・医療資機材等の供給等の調整体制構築



(2) 災害医療を担う人材育成

① 災害医療を担う人材育成

- ・ DMAT、DPAT、災害医療コーディネーターなどの育成・強化
徳島DMAT研修、関係機関による研修・訓練実施

② 災害支援関係団体との連携強化

- ・ 日本看護協会災害支援ナース、日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT)、災害リハビリテーション支援チーム(JRAT) 災害時公衆衛生支援チーム(DHEAT)など、災害支援専門チームとの連携体制の構築

(3) 災害医療力・機動力の強化

① 県外、海外医療支援組織との連携強化

- ・ AMDAや自衛隊衛生隊などの医療支援組織との連携強化、訓練、研修実施

② 自衛隊、警察、消防等関係団体との連携体制づくり

- ・ 実働的な訓練実施、ドクターヘリ運航調整や医療支援活動の調整

③ 災害医療活動の円滑展開のためサポート・ロジスティクス機能強化

- ・ 緊急車両への給油、病院・避難所への燃料供給のための備蓄
- ・ 人員・物資の移送のための防災関係や運送事業者との輸送計画の策定

④ 医療、応急、復旧活動のため行政コマンドー機能強化

- ・ BCP策定、災害医療ロジスティクスチームの強化、行政職員の知識・技能向上

2 要配慮者支援の強化

(1) 様々な配慮者への支援

- ① 高齢・障がい者等の円滑避難、被災後健康維持のためのサポート
 - ・ 避難所リーダー養成、マニュアルづくりのための市町村への情報提供や住民啓発
 - ・ 福祉避難所への介護食、発電機、資機材の備蓄支援、
- ② 誤嚥性肺炎予防、口腔内問題対応のための避難所口腔ケア供給
 - ・ 口腔ケア提供体制充実のための人材・物品供給体制検討、関係者の訓練・研修

(2) 医学的管理を必要とする要配慮者への支援

がん患者、在宅酸素療法患者など災害時に医学的管理が必要な方

- ① 医薬品・資機材の整備
 - ・ 透析情報供給機能強化(衛星携帯電話等整備)
 - ・ 在宅人工呼吸器装着難病患者の災害時電源確保(発電機の整備)
 - ・ ストーマ装具の整備、在宅酸素療法患者支援体制構築
- ② 医療機関、患者等の中でネットワーク構築
 - ・ 透析医療機関、患者会等ネットワーク構築
 - ・ がん患者ネットワーク構築・緩和ケア研修
 - ・ 「難病患者安心手帳」作成、在宅酸素療法患者支援検討、災害時リハビリ体制整備
- ③ 相談体制、情報基盤の整備

11

3 避難環境の向上

(1) 生活の質を重視した避難所の運営

- ・ 運営マニュアルによる市町村と連携した避難所運営
- ・ 運営リーダー養成講座、安全チェックマニュアル作成等住民主体の避難所開設運営
- ・ 県や市町村連携による食料、水等の計画的な備蓄
- ・ 災害時栄養・食生活支援マニュアルによる適正量の確保

(2) 多様な避難環境の創出

- ・ 避難所整備、公共施設の有効活用、衛生環境向上、資機材整備
- ・ 避難所指定見直し、住民への避難所情報提供等市町村との連携
- ・ 市町村、物流業者と連携した避難所への必要な物資の円滑供給(アマゾン)

4 情報共有の強化

(1) 住民への情報提供、住民からの情報把握

- ・ 総合地図提供システム、安心とくしまの機能強化、広報活動の強化
- ・ 地域住民からの情報の各種情報への反映
- ・ Lアラートを通じたリアルタイムでの住民への情報提供体制づくり

(2) 医療や防災関係機関との情報共有

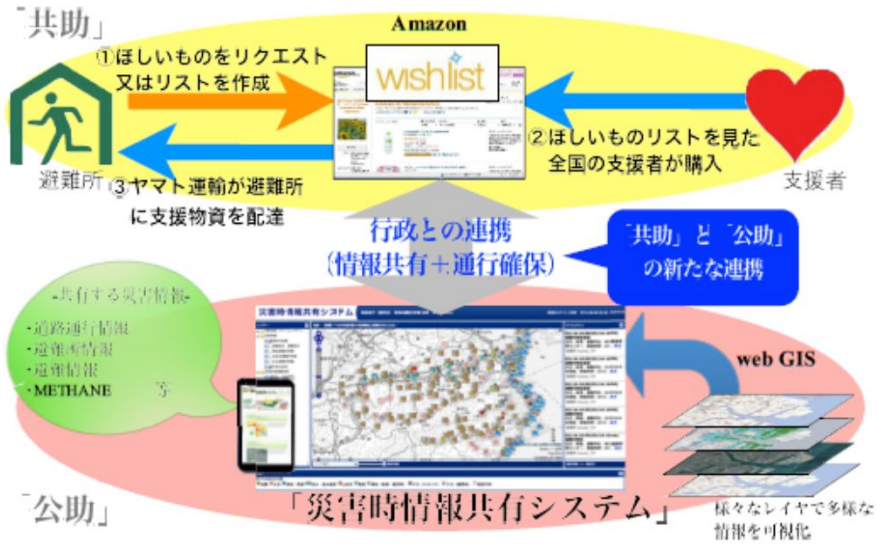
災害時情報共有システムに支援活動や活動資源の管理機能付加

5 災害医療支援ビジネスモデルの創出

パワースーツなど最先端機器の活用実証、新たな防災備蓄食品などの普及

12

「ほしいものリスト」を活用した 避難所ニーズの把握・支援イメージ



13